

# 大学史資料センター

## 1. 使命・目的

### 【現状（評価）】

本学の歴史に関する調査、研究並びに校史に係る資料の収集、保存及び公開を行い、本学の発展に資することを目的としている。

### 【改善方策】

ソフト面の充実をはかる。すなわち規定・組織・施設に関するハード面の拡充以上に閲覧・編集・展示にかなりの比重を置く。ただし、ハード面では、従来からの室拡充をより発展させる。

## 2. 事業活動

### 【現状（評価）】

### (1) 大学史の調査及び研究

本学の歴史に関する資料調査及び研究を随時実施している。2006年度は、鳥取県鳥取市、宮城県石巻市、愛媛県四国中央市・今治市、徳島県徳島市、広島県広島市、静岡県静岡市、長野県塩尻市・岡谷市・諏訪市、山口県山口市で創立者及び校友関係資料調査を実施した。また、センターの共同研究プロジェクトとして、複数年にわたる資料調査・研究活動を行っている。2006年度に実施した共同研究プロジェクトは、①安藤正楽関係（2000年～2006年完了）、三木武夫関係（2004年～、広島大学文書館との共同研究）、②人権派弁護士関係（2006年～）である。

### (2) 大学史、その他出版物の編集・刊行

各種出版物の編集や刊行を随時行い、大学史に関する情報の共有に向けた活動を行っている。『明治大学史紀要』（年1回刊編集・執筆）、『大学史活動（大学史資料センター事務室報告）』（年1回刊 編集・執筆）を定期刊行物として発行し、学内のみならず他大学並びに学外関連機関・個人に向けて配布・販売している。2006年度からは学内外へセンターの活動を報知することを目的とした『ニュースレター 明治大学史』（年2回刊 編集・執筆）の刊行を開始した。

このほか、雑誌『明治』や『学園だより』などの学内刊行物に「目で見ると明治大学」（年4回）、「大学史の散歩道」（年8回）等を執筆・報告している。また、学内外の新聞・雑誌等に大学史関係記事を随時発表している。

なお、2005年から刊行を続けていた資料集『尾佐竹猛著作集』（ゆまに書房）は2006年夏刊行の第24巻をもって完結した。

### (3) 資料の収集、整理及び保存

学内外から収集した資料を文書・物品・写真・図書等に区分して目録を作成、整理・保存している。所蔵資料は約100,000点。うち非現用行政文書は約40,000点、個人資料は約30,000点、大学発行の印刷物は約5,000点、図書は約5,000点、その他約20,000点（写真・物品・新聞雑誌）である。

資料は学内外から随時受入を実施している。2006年度には三木武夫関係資料の追加分や、木村礎関係資料などの大型資料を受け入れた。ほかに学内各部署に点在する非現用事務文書の収集も推進した。大型資料の受け入れを契機として、資料収集に関する内規を定め、業務の円滑化を図った。

また収集した資料を長期間にわたって保存するため、その修復を行っている。2006年度には複数年にわたって続けていた600枚の旧記念館等設計図の修復を完了させた。

### (4) 資料の展示、展示場の管理・運営

センターで収集・所蔵している資料の展示を実施している。常設展示を駿河台アカデミーコモン地下1階の大学史展示室で行っている。2006年度には展示室シンボルゾーンに校友から寄贈を受けた歴代記念館絵画を飾るなどリニューアルを図った。

また定期の企画展として、大学会館1階ロビーで明治大学小史展（駿河台校舎・年3回）、和泉キャンパスで和泉小史展（和泉校舎・年1回）、リバティタワー23階共同展示等を開催している。ほかに不定期に企画展を開催する。2006年度の場合、博物館特別展示室にて企画展「明大生と学徒兵」を開催した。

また本学ゆかりの地方と講演・展示会、シンポジウム等を通して交流を図っている。2006年度は「宮城浩蔵写真展」（山形県天童市）を実施した。

### (5) 校史に関する情報の提供等

年々増加する学内外からの明治大学史に関する各種問い合わせ、レファレンス等に随時対応している。

2006年度には大学史資料センター利用要綱を制定して業務を明確化し、利用者への便を図った。

### (6) 講演会・公開講座等の実施

明治大学リバティ・アカデミー公開講座として「社会人向け大学史講座」を開講している。社会に大学史の存在を広く知らせ、その意義への理解を深めることを目的としている。

#### 【改善方策】

##### (1) 大学史の調査及び研究

個別調査や共同研究は年々増加の傾向をたどっている。対象や方法等を精選・精査して調査研究にあたる。

2006年度に安藤正楽関係共同研究が完了したことに伴い、2007年度から元学長木村礎に関する共同研究を開始する。また今年度から戦没学徒兵の学術調査も行う。従前から実施していた三木武夫及び人権派弁護士に関する研究会は引き続き実施する。

##### (2) 大学史、その他出版物の編集・刊行

校友尾佐竹猛は、大審院判事を勤めるかたわら、法制史・維新史・風俗史など多方面にわたる著作を遺した。同人に関する研究書『尾佐竹猛研究』の計画を進めており、2007年度に日本経済評論社から刊行予定である。校友布施辰治は、人権派弁護士として、数多くの労働争議などの弁護にあたった。同人に関する資料集は2007年度中にゆまに書房から刊行予定である。

##### (3) 資料の収集、整理及び保存

近年受け入れ資料が増加の一途をたどっている。そのために収蔵施設の移転拡充等の作業を進めてきた。今後は確保できる施設の物理的限界も鑑み、不要資料を廃棄するための基準を整備する必要がある。資料の修復は継続する。2007年度は校友から寄贈を受けた学内新聞雑誌類の脱酸化処理や、使用頻度の高い明治大学専門部女子部旗の修復を実施する。

##### (4) 資料の展示、展示場の管理・運営

今後も地方展示会の実施を推進する。2007年度には、山形県天童市立旧東村山郡役所資料館との共催で宮城浩蔵特別展を行う。2008年度には福井県鯖江市で創立者矢代操写真展を開催する予定である。

##### (5) 校史に関する情報の提供等

2007年度中には利用者のための資料閲覧室を確保できる見通しである。円滑なレファレンス等の業務を行うため人的配置を再度検討し、外部に向けて開かれたセンターを目指す。

##### (6) 講演会・公開講座等の実施

2007年度も「社会人向け大学史講座」を継続実施する。実施にあたり、テーマの選定、対象とする層、内容構成についてコーディネータを中心に、講座内容の見直しを図り、受講者の拡大に向けてアピールする講座となることを目指す。

### 3. 推進組織体制

#### 【現状（評価）】

センターは、①所長、②副所長、③運営委員、④研究調査員、⑤事務長及び事務職員によって構成される。センターの事業内容やその運営等に係わる重要事項については、大学史資料センター運営委員会において審議される。委員会は所長を委員長、副所長を副委員長とし、各運営委員は、本学教職員の中から運営委員会が理事長に推薦し、理事会において任命される。運営委員には職務上の委員として総務部長、大学史資料センター事務長が含まれる。運営委員の任期は2年。委員は現在9名である。研究調査員は、必要に応じて本学教職員の中から所長が運営委員会の同意を得て委嘱する。現在、研究調査員は5名である。

センターに関する事務は、総務部大学史資料センター事務室が行う。室員としていわゆる専門職員が置かれ、各種事務業務を行うと同時に、資料収集、調査研究活動に従事している。事務長を含む専任職員は4名である。また、必要に応じて嘱託職員が置かれることとなっている。2006年度は2名の嘱託職員を置いた。

#### 【改善方策】

大学史関係事業を全学的な協力体制の下で推進するために、幅広く運営委員を選出し、委嘱する。このことは研究調査員の場合も同様である。事務分掌については、2007年度実施予定の機構改革を見据えた対応が必要となる。

センター室員への専門職制の導入は、センター単独の問題ではなく全学的な課題であるが、予備的な検討を進めることとする。